

症 例 報 告

通し番号		患者年齢	歳	患者性別	男・女	来局(調剤・OTC等相談)・在宅・入院(公衆衛生)
領域番号	16	管理するプロブレム		学校薬剤師活動 教室の換気方法		
自ら薬学的管理に関与した期間および回数 (開始年月日～終了年月日・回数)				期間(西暦)	2020年1月9日～2020年3月20日	
				回数	3回(内 フォローアップ 0回)	
患者背景	【自らの薬学的管理までの経過】					
	【病歴】					
	【社会・生活歴(嗜好品含む)】					
	【家族歴】					
	【薬学的管理開始時の処方内容】					
	【他科受診・併用薬】					
薬学的管理の要約	<p>担当している中学校より教室の換気についての定期検査と、指導についての相談をうけた。2020年1月9日学校を訪問し、換気状況の調査および、二酸化炭素濃度の測定を行った。始業前の換気は不十分であり、二酸化炭素濃度は基準値である1500ppmを超えていた。授業開始直後1500ppmを超え、始業20分後には2000ppmに至った。対角線上の欄間を開放するとともに、熱交換換気装置を稼働させたところ徐々に二酸化炭素濃度は低下し10分後には1500ppmを切り、終業時には1200ppmまで低下した。別の教室では始業前の換気が行われており、熱交換換気を常時稼働させていた。700ppmでスタートし、授業時間を通じて800ppm～900ppmで推移した。各教室について、二酸化炭素濃度、室温、湿度の推移について学校に報告を行い、休憩時間中の換気とともに、授業中は常に熱交換換気を稼働させるよう指導した。1月20日再度換気状況の検査を行い、全クラスとも換気が徹底されていることが確認された。今回の換気の定期検査の結果については、飲料水・照度などの検査結果と合わせて2020年3月に開催された学校保健委員会で報告し、教職員、PTAの他、学校医・学校歯科医とも共有した。</p>					
文献等	学校環境衛生管理マニュアル「学校環境衛生基準」の理論と実践[平成30年度改訂版]P26, P144					